

総監初度視察

西部方面総監 鳥海陸将は、令和7年11月から12月の間、宮古島駐屯地、石垣駐屯地、自衛隊那覇病院、自衛隊沖繩地方協力本部及び自衛隊福岡病院の初度視察を実施し、南西地域の防衛を着実に強化している部隊等の現状等を把握するとともに、入院患者の激励を実施しました。

発行所
自衛隊 西部方面総監部
総務部広報室
電話 096-368-5111
印刷所
(有) 明星印刷所



管内視察（石垣駐屯地）



慰霊碑へ拝礼をする総監（宮古島駐屯地）



慰霊碑へ献花をする総監（宮古島駐屯地）



入院患者の激励（自衛隊福岡病院）



施設巡視（自衛隊沖縄地方協力本部）



隊員と談笑する総監（自衛隊那覇病院）



日出生台演習場での訓練研修



体験喫食（湯布院駐屯地）



隊員との懇談（湯布院駐屯地）

西部方面隊は、令和7年12月5日（金）、日出生台演習場及び湯布院駐屯地において、オピニオン・リーダー訓練研修を実施しました。日出生台演習場では12式地对艦誘導弾の発射準備から射撃位置への展開、発射までの一連の動作についての研修を、湯布院駐屯地では体験喫食や隊員との懇談を通じて部隊の現状等を知っていただき、本訓練研修を通じて、部隊の統制された迅速・確実な動作や隊員一人ひとりの高い練度により装備品の能力を最大限発揮し、九州・沖縄地域の防衛態勢を万全にしている現状について理解を深めていただきました。

オピニオン・リーダー訓練研修

また、演奏会に先立ち、地元高校の吹奏楽部の生徒に対して演奏技術指導を行うとともに、演奏会において合同演奏を実施し、音楽に携わる者同士、絆を深めることが出来ました。



地元高校（吹奏楽部）との合同演奏



西部方面音楽隊による単独演奏



参加できなくなった米音楽隊からのビデオメッセージ



地元高校（吹奏楽部）生徒への技術指導

日出生台地域における日米共同演奏会

西部方面隊は、令和7年12月7日（日）、石垣市民会館（沖縄県石垣市）において「日米共同演奏会」を実施しました。本演奏会は、石垣島において初となる公共施設を利用した日米共同演奏会であり、地域の皆様のご理解・ご協力のもと、会場にはほぼ満席となる約1,000名の方々にご来場いただき、無事に開催することが出来ました。演奏会では、第15音楽隊と米海兵隊第3海兵機動展開部隊音楽隊との共同演奏により、日米の強い絆を表現するとともに、地元小学校器楽クラブ等の生徒の皆さんと一緒に演奏をする等、地域の皆様と一体感を感じられる演奏会となりました。

石垣島における日米共同演奏会



日米音楽隊による共同演奏



地元小学生との共同演奏

総監・方面最先任による月例慰霊・安全祈願

西部方面総監 鳥海陸将は、方面最先任上級曹長（阿世賀准陸尉）とともに、健康駐屯地内の方面殉職隊員慰霊碑及び義烈空挺隊慰霊碑に献花し、殉職された隊員及び義烈空挺隊の英霊に対し、哀悼の誠を捧げるとともに、全ての隊務における安全を固く誓いました。引き続き、月末を基準に慰霊を継続していきます。



方面殉職隊員慰霊碑に献花する鳥海総監（左）



義烈空挺隊慰霊碑に献花する鳥海総監（手前）



第四師団

お問い合わせ先
福岡駐屯地
第4師団広報室
092-591-1020

令和7年度 第2次教育訓練基盤構築

第4師団は、令和7年11月1日（土）から21日（金）までの間、日出生台、十文字原及び大野原演習場において西部方面隊が計画する令和7年度第2次教育訓練基盤構築に参加しました。

本基盤構築は、演習場等の機能維持・向上に係る所要の整備を実施して、訓練及び演習の効果的な実施と演習場等の長期安定使用を図るとともに、演習場ごとに普通科連隊を基幹とする整備隊を編成し、各種任務の遂行に必要な練度の向上に資する演習場の機能維持・向上を行い、訓練の効果的な実施と演習場の長期安定使用を狙いとして実施しているものです。

大野原演習場整備隊 第1小隊長として参加した隊員は「11月4日から7日までの間、大野原演習場の基盤構築に参加し、手榴弾投擲壕補修、安全柵の補修という任務でしたが、現場を細部まで確認しつつ、安全を確保しながら効率的に作業を進める重要性を学ぶとともに、小隊で連携し、役割分担を徹底することで作業の質が向上することを実感しました。また、小隊の隊員の協力や調整先の速やかな対応によって気持ちよく任務を遂行することができました」と本基盤構築からの学びと隊員達への感謝を述べました。

令和7年度第3次師団訓練検閲

第4師団は、令和7年11月下旬、大分県の日出生台演習場において第41普通科連隊を基幹とする「第41戦闘団」を受閲部隊とし、「令和7年度第3次師団訓練検閲」を実施しました。寒気が強まる中で実施された訓練検閲は5夜6日にわたり、戦闘団は、現代の複雑な戦場環境を模した戦場で戦い抜き任務を完了しました。戦況が開始され、戦闘団は速やかに陣地地域へ前進し防衛陣地を構築しました。この過程において、偽陣地の構築や車両等の装備品模型を設置することによって敵を欺くとともに、敵の偵察衛星やドローンによる上空からの監視に対応するための対空偽装を施す等、地上のみならず宙や低空域での偵察から部隊を守る戦闘要領が徹底されました。現代戦では、領域横断作戦（陸・海・空の領域にまたがって、宇宙・サイバー・電磁波も含む複数の領域を統合して活用する作戦概念）への対応が勝敗を左右する非常に重要な要素となっていることから、本検閲では、「領域横断作戦環境下」における部隊の対応能力が評価の対象となりま



民生資機材及び機械による整備（大矢野） 機械による整備（日出生台） 安全教育

断作戦への対応を重視しつつ、一刻と変化する状況下において各級指揮官が的確に指揮の要訣を実践するとともに、諸職種が協同し各種戦闘力を効果的に組織化しました。防衛戦闘では、隊員からの火力要求に対し迅速かつ効果的に対機甲火力（装甲車に対するミサイル等）、砲迫火力（大砲等）及び対空火力（航空機やドローンに対するミサイル等）を発揮し、敵の主要な戦力を撃破して攻撃前進を阻止する等、全隊員が戦闘団長の要望事項である「最善を尽くせ」を具現実行し、一致団結して任務を完了しました。本検閲を通じて現代戦に関する様々な教訓が得られ、第4師団としての各種能力を向上させるものとなりました。



陣地構築 陣地侵入 防衛戦闘 砲迫火力の発揮

大相撲十一月場所演奏支援

第4師団は、令和7年11月23日（日）、大相撲十一月場所の千秋楽が行われた九州国際センターにおいて、第4音楽隊による優勝力士の表彰式開始の際の国歌吹奏及び優勝パレードの演奏支援を実施しました。我が国の国技である大相撲の表彰式の式典演奏及びパレード演奏の興味や親しみを感じて頂く機会となりまして、本演奏支援に打楽器奏者として参加した隊員は「大相撲十一月場所での演奏は、大変貴重な経験でした。国技ということもあり、所作を含め非常に緊張しましたが、大きな学びとなりました。優勝力士のインタビューで語られた『緊張感とありましたが、自分らしい相撲をとれてよかったです』という言葉は、私自身にも重なる部分がありました。演奏ではいつも緊張してしまいがちですが、日々の訓練を惜しまず続けることで、実力を伸ばし、最高のパフォーマンスに繋がると改め、確信しました。この経験を胸に、今後の勤務にも前向きに取り組みしていきたいと思えます」と述べました。今回の演奏支援は、第4音楽隊に深い活動となりました。



優勝パレード演奏 国歌吹奏及び表彰演奏

第八師団

お問い合わせ先
北熊本駐屯地
第8師団広報室
096-343-3141

総合戦闘射撃 第42即応機動連隊（北熊本）

第8師団は、令和7年9月30日（火）から10月4日（土）までの間、日出生台演習場において、令和7年度総合戦闘射撃訓練を実施しました。

第42即応機動連隊（連隊長 鈴木一佐）は、対着上陸戦闘の場面を想定し、侵攻する敵の上陸阻止から沿岸部での撃破に係る戦闘様相を一連の状況で行い、収容援護、機動打撃、逆襲等の戦闘行動と接続させて連隊の保有する兵器・火砲の実弾射撃訓練を昼夜間にわたり実施して、任務遂行能力の向上を図りました。

また、10月3日、防衛モニター、各種協力団体が参加する「総合戦闘射撃見学ツアー」を実施し、16式機動戦闘車をはじめとした各種火砲の迫力ある射撃の見学機会を設け、参加者は大いに盛り上がりとともに、連隊の高い練度を通じて、陸上自衛隊への理解促進及び防衛環境醸成に寄与することができました。



84mm無反動砲射撃 16式機動戦闘車射撃

レジリエンス演習 第8施設大隊（川内）

第8師団は、令和7年10月20日（月）から10月31日（金）までの間、日出生台演習場及び十文字原演習場において、島しょ守備部隊の一連の行動に係るレジリエンスの確保について演練し、陸上構成部隊運用の実効性向上の資とする目的で、本レジリエンス演習に参加しました。

第8施設大隊第2中隊（中隊長 桐原2尉）は、主戦闘地域守備部隊である第42即応機動連隊を直接支援することを任務として参加しました。敵特殊部隊、ミサイル攻撃等のあらゆる脅威下において、生き残りつつ任務を継続するため、築城、偽装、分散等のレジリエンスの一般的手順を講ずるとともに、我の陣地等への攻撃を局限させることに着意しました。本レジリエンス演習への参加を通じて、今後、「レジリエンス」をより向上させるためには、常に敵の視点に立ち、こ

れに対抗するため何をなすべきかを真剣に考え続けることが重要ということを強く認識することができました。



障害構成 道路閉塞準備 偽装 プレスキャスコンクリート構築

小火器射撃訓練 奄美警備隊（奄美）

第8師団は、令和7年11月27日（木）から12月2日（火）までの間、大矢野原演習場において、小火器戦闘射撃訓練を実施しました。奄美警備隊（隊長 堀内1佐）は、年間を通じ、奄美駐屯地にある屋内射場において、様々な状況を想定した射撃訓練を実施しています。今回は、島の演習場において、小火器戦闘射撃を実施し、島の屋内射場では実施できない複雑な動作を伴う応用的な戦闘射撃を実施し、部隊・隊員の練度向上を図りました。訓練に参加した隊員は、皆真剣な表情で訓練に取り組んでいました。今後も奄美警備隊は、島しょ防衛任務部隊として訓練に邁進していきます。



建物への突入 機関銃による射撃 小銃による射撃 分隊長による指揮 分隊射撃

第十五旅団

お問い合わせ先
那覇駐屯地
第15旅団広報・渉外班
098-857-1155

創立記念行事「陸自祭」

第15旅団は、令和7年11月29日（土）及び30日（日）の両日、那覇駐屯地において第15旅団創隊15周年記念行事及び那覇駐屯地創立53周年記念行事を行いました。

本行事においては、宮崎防衛副大臣にご視察いただき、旅団長に対する熱い訓示をいただきました。また、泉旅団長は「第15旅団は、国民、特に沖縄県民の皆様の生命と財産を守り、安心と安全を確保するため、いついかなる任務も遂行できる逞しい旅団／師団を目指す」との決意をこ来賓やご来場の方々に述べていただきました。

このほか、特別展示と銘打ち、多用途ヘリコプターや輸送ヘリコプターによる戦技飛行の展示や隊員のリペリング展示といった自衛隊ならではの技術を披露し、来場者から大きな拍手をいただきました。また、ステージイベントとして沖縄県にゆかりのある団体チームや吉本興業の芸人さんにも出演をいただき、会場を大いに盛り上げていただきました。来場者の出迎えと見送りには第15旅団エイサー隊による道ジュネーを行いました、来場者から大きな声援をいただきました。



宮崎防衛副大臣による訓示



観閲行進



特別展示



エイサー隊による道ジュネー

沖縄県総合防災訓練

令和7年10月19日（日）、沖縄県総合防災訓練が沖縄県本島において行われました。第15旅団からは第51普通科連隊、第15ヘリコプター隊及び第15施設隊が参加し、防災関係機関

との連携強化を図るとともに、災害発生時の円滑な活動基盤を確保するため、家屋の倒壊からの救出・救助、道路啓開の輸送ヘリコプターによるDMAT要員の補給艦への輸送、移動基地局車の輸送、多用途ヘリコプターによる被災者の輸送等を行いました。第15旅団は引き続き、警察や消防といった各種防災関係機関と協力し、県民の安心・安全のため尽力してまいります。



道路啓開



倒壊した家屋からの救出・救護



ヘリコプターによる被災者の輸送



移動基地局車の輸送

石垣島まつり

令和7年11月2日（日）、石垣島で開催された石垣島まつり2025における市民大パレードに第15旅団から石垣駐屯地、第15音楽隊及び第101不発弾処理隊が参加しました。新川小学校前から旧市役所跡地までのパレードでは、沢山の方々から暖かい声援をいただき、ありがとうございます。今後も、各地のイベントへの参加や支援を通じて、旅団の活動を皆様にご覧いただきたく思います。



第15音楽隊による演奏パレード



石垣駐屯地 第101不発弾処理隊によるパレード



参加部隊記念撮影

方面直轄部隊

RD25 MLRS射撃 第301多連装ロケット中隊(湯布院)

第2特科団第301多連装ロケット中隊は令和7年9月23日（火）矢野別演習場において、令和7年度国内における米海兵隊との実動訓練（レゾリュート・ドラゴン）の一環として米海兵隊との共同実弾射撃訓練を行いました。

中隊が行う多連装ロケットシステム（MLRS）実弾射撃訓練は、2年に1度行われ、射撃訓練を活用し、射撃練度の向上を図りつつ米海兵隊との連携要領を確認することができ、とても重要な訓練になりました。

この実弾射撃訓練に向けた訓練を、年度当初から行い、発射機進入要領、安全点検要領及び射撃実施手順と併せて不測事態対処発生時の訓練を行ってきました。令和7年9月23日（火）に多連装ロケットシステム（MLRS）射撃を行った際は、空気が震えるほどの爆音と衝撃波が発射機を包み、地面に伝わる振動と火薬の匂い、そして燃え広がる閃光が遠くまで伸びていきました。「この瞬間緊張感が漂うと同時に射撃班長としてのやりがいを感じた」と射撃班長の岡崎3曹は述べていました。

また、米海兵隊と共同し射撃練度を向上することで相互運用性の向上を図るとともに、実弾射撃訓練を通じて、現有の編成・装備を駆使する練度及び隊員の責任感の重要性を再認識することが出来ました。今回無事に射撃任務を完遂することが出来たのは中隊が一丸となり、また発射機等の整備をしていただいた第102特科直接支援大隊整備隊の方々の献身があり今回の射撃任務を達成することが出来ました。今後も引き続き継続的な練成を行い、射撃練度の向上に努め「抑止」と「対処」に寄与していきます。



MLRS 実弾射撃



共同実弾射撃訓練に参加した日米両国の隊員

令和7年度西部方面混成団実動訓練検閲 第24普通科連隊(えびの)

「常即一心」で有終の美

第24普通科連隊は、令和7年11月26日（水）から30日（日）までの間、霧島演習場において「令和7年度西部方面混成団実動訓練検閲」を受閲しました。第24普通科連隊は、令和9年3月に廃止が予定されているの歴史ある第24普通科連隊の名に恥じないよう、物心両面を万全にし検閲に臨みました。

第24普通科連隊は、「防衛における師団予備」の任務を受け、連隊長要望事項「柔軟性を保持せよ」「積極果敢に行動せよ」と掲げ、その作戦名を「オペレーションオジロワシ」とし各種事態に対応した計画を作成しました。

寒暖の差の厳しい霧島演習場で、対特殊部隊、対ヘリボン対処、逆襲部隊の防護等、オジロワシの如く、敵の兆候・情報を収集し、俊敏かつ勇猛果敢に任務を遂行しました。

また、即応予備自衛官は、43名が出頭し「常即一心」となり任務を完遂することができました。

優秀隊員表彰を受賞した本部管理中隊所属の即応予備自衛官山田2曹は、「通信陸曹として、第24普通科連隊最後の検閲で活躍し任務完遂できた事を嬉しく思います。今回の受賞を糧に即応予備自衛官として最後まで頑張ります」と述べていました。

最後に連隊長は、「寒い中ありがとうございます！任務を完遂し有終の美を飾ることができました。我々は今後も第24普通科連隊最後の日まで、いかなる状況下にあっても任務遂行できるように『常即一心』で邁進していこう」と訓示を述べました。



第24普通科連隊編成完結



即応予備自衛官戦力化



常即一心で



あらゆる状況下での幕僚活動



被拘束者確保



敵の襲撃に果敢に立ち向かう



優秀隊員 山田即2曹



訓示を述べる連隊長



優秀の美

創隊70周年記念行事 （西部方面会計隊）

西部方面会計隊は、令和7年12月6日（土）、健康駐屯地において、西部方面会計隊創隊70周年記念行事を行いました。山口方面会計隊長は、記念式典の式辞において、70年の歩みを前半と後半に分けて振り返り、前半35年の東西冷戦時代と現在に至る後半35年の国際社会の状況に触れつつ、近年の戦後最も厳しく複雑な安全保障環境について言及しました。その上で、「西部方面会計隊の任務達成なくして西部方面隊の任務達成なし」「西部方面隊の任務達成なくして自衛隊の任務達成なし」という認識を隊員一同で共有することを要望しました。また、会計科支援をもって国防の最前線を支え、国家・国民を守ることができるとの西部方面会計隊を目標とし、指揮官として先頭に立ち、全身全霊を尽くして任務に邁進することを改めて誓いました。式典後は駐屯地クラブにおいて記念会食を行い、ご来賓としてお越しいただいた元方面会計隊長を始め、OBの方々と昔を偲びながら親睦を深めるとともに、隊員の帰属意識の高揚を図ることができました。昔のアルパムをご覧になったOBからは、「当時の出来事が昨日のように。これからも現役時代と同様に若い気持ちで生きていきたい」との元気な声が聞かれました。西部方面会計隊は、会計隊本部及び13個会計隊・10個派遣隊が西部方面隊の計24個駐屯地に分散されていますが、隊員一丸となって、引き続き会計支援に邁進し、新たな歴史を刻んでまいります。



令和7年度自衛隊統合演習（07JX） （自衛隊那覇病院）

那覇病院は、令和7年10月22日（水）から同月31日（金）までの間、令和7年度自衛隊統合演習（07JX）に参加し、那覇病院等において統合による治療、患者後送等を演練しました。

本訓練の特徴は、陸・海・空の隊員で業務運営を行う統合訓練であり、集められたメンバーがうまく連携できるように「チームビルディング」を意識して実施しました。チームビルディングとは、メンバー一人一人の能力を最大限に引き出し、チームとしての目標達成を目指すための組織作りの取り組みです。訓練開始にあたり、訓練の目的や概要について、全体教育を実施するとともに、DCS（タメージ・コントロール）の手術（術）班では、本訓練においてチームビルディングの実

態と今後の課題をテーマに研究に取り組みました。任務遂行の可否は、チームが連携し、本来の能力を発揮できるかが重要ですが、お互いの経験値や背景の違いからうまく連携できない等の問題が生じる可能性があるので、即応的なチームビルディングが必要であり、沖縄医療拠点の機能発揮において重要な課題であると認識しています。

また、本訓練には、常備自衛官だけでなく、予備自衛官（技能公募）も参加しました。参加した隊員は、「一連の状況での訓練に参加でき、全体像をイメージアップすることができた」、「今後も是非このような訓練に参加したい」と述べるとともに、業務運営においては、各人専門的な知見から積極的に意見交換をしていました。

那覇病院は、引き続き隊員から信頼される職域病院であり、医療拠点であるために、情熱と執念をもって任務に邁進してまいります。



防災教育 （佐賀地方協力本部）

自衛隊佐賀地方協力本部は、令和7年10月23日（木）、佐賀県立佐賀商業高校において防災教育の一環としてAEDを併用した胸部圧迫による一時救命処置要領の展示及び実習支援を行いました。この活動は、同校の校長先生が、「生徒に人として生活する上での知識として身に付けさせたい」との思いで、平素から関係のある佐賀募集案内所の広報官に依頼され実現しました。対象は2年生約240名で、2回に分け、1回を12グループに区分して同校体育館内で実施しました。参加した生徒たちは、当初はかなり緊張していましたが、実習が進むにつれ緊張もほぐれ、真剣なまなざしを注ぎつつも生徒相互に教えあひながら和気あいあいとした様子で実習に参加していました。生徒からは、「最初はどろどろしていたらいいかパニックになっていたけど、分かんなくて教えてもらいながら進んでいけるようになった」、「人の命を守る仕事をしている自衛隊の人たちなので安心して実習を受けられた」となどの声が聞かれました。また、教頭先生は、「今後は、部活動中、特に運動部の練習中に発生した事故に対処するため速やかにAEDを使用できるように身近な人を守れるようになることを期待しています。また、この機会を通じて他人の生命を守ることを意識し、引いては人命

尊重の気持ちが育まれることを望んでいます」と言及され、終始教育を見守っていらっしゃいました。担当広報官も高校生が陸海空3色の迷彩服を目にし、統制の取れた実習支援を通して自衛隊の魅力の一端を感じてもらえたのではないかと感想を述べていました。佐賀地本は、引き続き若年層との触れ合いを通じて、自衛隊の更なる理解促進に努めてまいります。



目指せ！新メニュー年間40種類 （久留米駐屯地業務隊）

久留米駐屯地業務隊は、令和7年4月から「目指せ！新メニュー年間40種類」に取り組んでいます。これまでも、隊員からのリクエストメニュー、駐屯地名物メニュー、ご当地メニュー、地産地消メニュー、世界の料理メニュー等、栄養士が創意工夫して給食業務に取り組んでまいりましたが、今年度は飽きさせることなく、隊員に喜んでもらえるように、今年度は新メニューの考案・提供にこだわって、12月末段階で新メニュー31種類に到達しました。9月下旬に入隊した自衛官候補生からは「一時間に追われている時や辛い時も隊員食堂のおいしい料理を食べると元気に訓練に取り組みました」、「午後、自衛隊体操検定がありますが、新メニューの肉卵あんかけうどんやパワーツを付けて必ず合格します」と笑顔で語ってくれました。栄養士の城島技官は「隊員さんの声を励みにして、物価高騰に負けることなく、隊員さんの笑顔のために美味しい食事を提供していきたい」と意気込みを語ってくれました。



第103施設直接支援大隊 第2直接支援中隊

3曹 榊原隆之介

温か家族

我が家は、私と妻、生後半年になる息子の3人家族です。

私は小郡駐屯地で通信整備・通信係陸曹と文書陸曹を兼務しています。趣味の古武道と、第一子が誕生してからは「初めての子育て」という任務も加わり、三刀流で充実した日々です。

部隊では、計画的に業務を遂行して積極的に休みをとれるよう各級隊長や先任からご指導いただいたり、人が少ない厳しい状況でも勤務を調整していただいたりと多くの配慮をいただき、おかげさまで家族と過ごす時間を大切にできています。

しかし、どうしても月に1週間ほどは当直等で家を空けるので、その間は妻が子育てや家事を担ってくれています。慣れない育児に向き合いながらも明るく家庭を支えてくれる妻には、感謝の言葉しかありません。また、実家や親せきからベビーグッズの贈り物があつたり、私の不在間に義母が手伝いに来てくれることもあり、日々、周りの人から支えられること、祝福されていることを実感します。

多くの方々の温かい支えの中で、家族とともに成長できる幸せに感謝しながら、これからも日々を大切に過ごしていきたいと思っています。

地域主催の親子サロンにて お月見姿で

